

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 6 日現在

機関番号：34314

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02230

研究課題名(和文) 奥義抄及び新出歌学書の本文研究と、平安末期歌学史の再構築

研究課題名(英文) Text research on Ogisyo and newly discovered text of study on waka, Rebuilding the history of it in late Heian period

研究代表者

黒田 彰子 (Kuroda, Akiko)

佛教大学・文学部・非常勤講師

研究者番号：30333181

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、1. 奥義抄の伝本研究、2. 新出歌学書の研究、3. 2を踏まえた平安末期歌学史の研究、の三課題から成る。1については、平安末期以降書写の古鈔本、江戸初期書写の伝本を調査し、後者については、主要な伝本を成果報告として刊行した。古鈔本についての調査は完了し、刊行に向けての最終作業を行っている。2については、疑開和歌抄、口伝和歌積抄等、平安中期に成立した歌学書の発見を受け、平安末期成立の歌学書とどのような連続性、非連続性を有するかという観点からの検討を行い、口伝和歌積抄については、その成果報告を刊行した。3については、対象となる和歌童蒙抄の注解を完成し、現在その注解刊行に向けて作業中である。

研究成果の概要(英文)：This subjects of this research are as follows. 1 is the text research on Ogisyo, 2 is research on the new material text of study on waka, 3 is research of study on waka in late Heian period.

About 1, we already finished to research of old text in early medieval times and now they will be published in a few years. we have published about manuscript in early modern time in 2016, 2017. About 2, we analyzed the Gikai-wakasho and Kuden-wakasyakusyoo and others from the perspective continuity and discontinuity with early Heian period. As Kuden-wakasyakusyoo, we have published the annotation of it. About 3, We have completed the annotation manuscript of Waka-domosyo and working for publication in Feb. 2019.

研究分野：和歌

キーワード：奥義抄 口伝和歌積抄 疑開和歌抄 文献学 歌学史

1. 研究開始当初の背景

堀河院歌壇期から平安末期にかけて、多数の歌学書が書かれた。俊頼髓脳の如く、歌学説や和歌説話を含む形態の歌学書は、六条家歌人によって奥義抄、袋草紙、さらには顕昭の一連の歌学書など、いわゆる歌学としての性格を前面に示す書へと展開してゆき、他方、和歌童蒙抄、和歌色葉など、平安中期の学説をも網羅的に受容した歌学書も現れる。

歌学書は、歌を詠む際の知識を書き記したものであり、あくまでも詠歌の基礎となる知識に過ぎないとされ、いわゆる芸術論としての歌論の下位に位置付けられてきたとも言えよう。しかし、例えば和歌の精華とも言える新古今和歌集の基盤に、歌学はどのように機能したのかについての考察は十分ではなく、その結果、文学としての和歌との回路が明確にされたとは言いがたい状況であった。

本研究は、堀河院歌壇期から平安末期に至る歌学書を再検討し、和歌と歌学の回路を結ぶことを企図するものであった。

この作業を進める際に対象とすべき歌学書は、第一に奥義抄であった。奥義抄においては、いかに詠むべきかが、例示された被注歌に関わる知識を提示するという方法によって示され、表現法や素材に関わる直截な知見の提示になっていない。知識の提示によって詠歌の方向性を示すという叙述のあり方が、清輔の意図をわかりにくくさせているのである。その困難を越えるために必要な作業は、奥義抄の説を、一旦平安末期の歌学書の中に置いてみることにすなわち、他の歌学書との比較分析である。

しかし、奥義抄に先行する歌学書については、俊頼髓脳を除いては、先行研究に乏しい上に、テキスト研究自体も進んでいなかった。このような状況の下、近年、いくつかの歌学書が発見された。例えば冷泉家

から発見された口伝和歌釈抄は、その表紙に「口傳和詞釋抄 奥義抄之類也」と墨書する。また 1989 年に紹介された別本童蒙抄は、綺語抄等の歌学書に近い叙述方式をとるが、これについても、確かな位置づけは行われていなかった。また 2008 年に報告された疑開和歌抄は、和歌童蒙抄の依拠資料であることが確実視され、両テキストを比較分析すると、その関係は、予想を遥かに上回る根本的なものであった。しかし、その後の研究は順調とは言えない。その理由の一つが、疑開和歌抄と基盤を同じくする歌学書群の総合的な研究、及び、相互の位置関係を明らかにすることが困難であったためである。

別本童蒙抄、疑開抄、口伝和歌釈抄など新出の歌学書と、既知の歌学書である能因歌枕、綺語抄、隆源口伝などを含めた総合的な検討が必要であるが、それはまず、テキスト研究から必要であった。

歌学書テキストについては、日本歌学大系がその基本的なものであり、その重要性、歴史的意味は極めて重大である。しかし、その依拠本文は主として近世の写本であり、また、恣意的な本文の補入、改変も認められた。俊頼髓脳については、テキスト研究が進められて来たが、奥義抄、和歌童蒙抄、和歌色葉など、重要な古鈔本の存在する作品については、まずそれを公刊することが必要であった。研究代表者の黒田は、すでに鎌倉期書写の和歌色葉の影印本を公刊しており(『上野本和歌色葉』1985年)、また 2005 年から続けている和歌童蒙抄の注解においても、唯一の古鈔本である前田育徳会尊経閣文庫蔵本を使用してきた。平安末期の重要な歌学書について、上記二作品と共に重要な奥義抄の本文研究は、避けることのできない課題であった。

そこで、まず奥義抄の完本である近世書写本及び版本の調査を行い、一類本といわ

れるこれらの写本群をデータ化し、伝本ごとに公刊することとした。その上で、同時に、古鈔本である、藤原定家筆本(天理図書館蔵)、伝頭昭筆本(尊経閣文庫)、新出冷泉家蔵本などの、伝本調査を並行して行うこととした。

2. 研究の目的

奥義抄伝本の調査、及び、正確な本文の提供。近世書写本については、2016年～2018年に、伝本ごとに刊行する。

新出歌学書の本文研究及び、内容分析。具体的には、疑開抄と和歌童蒙抄の関係を全編にわたって明確にする。口伝和歌積抄を注解すると同時に、正確な本文を提示する。また同一作品ではないかと言われる隆源口伝との比較も行う。

既知の歌学書である、和歌色葉、和歌童蒙抄の本文研究及び、内容分析を通じて、平安歌学史を見通し、如上の歌学書を歌学史の上に位置付ける。

3. 研究の方法

奥義抄の本文研究。

奥義抄の伝本は比較的多数残されており、それらを可能な限り調査の上、正確な本文を確定する。

注解作業

口伝和歌積抄、和歌童蒙抄の注解作業を行う。

平安期歌学史論の提示

和歌童蒙抄を中心に、平安中期歌学書の説がどのように享受され、何が変化していったのかを明確にする。

4. 研究成果

本課題の中心となる奥義抄の江戸期写本及び版本の翻刻を公刊した。また、調査の過程で、所在不明であった日本歌学大系の使用底本を発見することができたので、これを対校本文として異同一覧を付した。

奥義抄古鈔本については、調査、本文研究を完了しており、古鈔本集成を刊行の予定である。

新出歌学書である口伝和歌積抄の正確な本文を提示し、これに注解を加える作業は継続して行い、第四集を刊行した。

日本歌学大系に収録される平安期歌学書のうち、和歌色葉については、最善本を選び、これを校本の形式で提供した。

平安歌学史の鍵となる和歌童蒙抄については、注解を完了した。これについては、研究成果公開促進費(学術図書)の交付を受け、平成30年度に刊行の予定である。また、未解決の問題であった異本、流布本成立の先後については、〔雑誌論文〕、において調査結果及び、結論を示した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 4 件)

黒田彰子、和歌童蒙抄異本攷(承前)、愛知文教大学比較文化研究 14、査読有、2016、pp.1-13

黒田彰子、和歌童蒙抄の配列と目録、愛知文教大学論叢 19、査読無、2016、pp.1-21

黒田彰子・大森一浩、和歌童蒙抄輪読十六、愛知文教大学論叢 18、査読無、2015、pp.23-60

黒田彰子・大森一浩、和歌童蒙抄輪読十五、文芸論叢 85、査読有、2015、pp.39-65

〔学会発表〕(計 1 件)

濱中祐子、『「別本」童蒙抄』考、平成28年度和歌文学会秋期大会、2016.10.9、於東京大学

〔図書〕(計 6 件)

黒田彰子・中村文・蔵中さやか、『書陵部蔵御巫本 奥義抄』(平成29年度成果報告書)、2018、289頁

梅田径、『翻刻 名古屋市蓬左文庫蔵 巢子』(平成29年度成果報告書)、2018、242頁

口伝和歌積抄研究会(黒田彰子、濱中祐子、廣森美枝子、柴田緑)、『口伝和歌積抄注解四』(平成29年度成果報告書)、2017、108頁

蔵中さやか・中村文・黒田彰子、『肥前島原松平文庫蔵 奥義抄 付慶應大学 旧志香須賀文庫 蔵本異同一覧』(平成29年度成果報告書)、2017、319頁

黒田彰子、『清輔奥儀抄』(28年度成果報告書)、2017、196頁

黒田彰子、『校本和歌色葉』(26年度成果報告書)、2016、254頁

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

黒田彰子 (KURODA, Akiko)
愛知文教大学・人文学部・教授
 佛教大学・文学部・非常勤講師
研究者番号：30333181

(2) 研究分担者

()
研究者番号：

(3) 連携研究者

中村 文 (NAKAMURA, Aya)
埼玉学園大学・人間学部・教授
研究者番号：10337660

蔵中 さやか (KURANAKA, Sayaka)
神戸女学院大学・文学部・教授
研究者番号：80309426

(4) 研究協力者

大秦一浩 (OHATA, Kazuhiro)
濱中祐子 (HAMANAKA, Yuko)